

土層強度検査棒研究会の設立趣意書

1. 背景

近年、日本では、多発する短時間豪雨による災害や地震災害が多発しており、定量的で簡便な危険斜面抽出方法が求められている。また、厳しい財政状況のもと、定量化に必要な設計定数を簡便で安価に計測できる方法も求められている。

土層強度検査棒は、表層厚分布が複雑な山地斜面等において、表層分布を簡便に面的調査することを目的に開発された。また、本技術は、表層強度（粘着力と内部摩擦角）が測定可能なベーンコーン貫入試験を兼備し、斜面安定度評価手法の確立等に向けた自然斜面への適用だけでなく、盛土や堤防等においても適用が期待できる。

しかし、本技術は、土層深や土層強度のばらつきなどの現場の知見が十分でないため、測定結果の精度が検証されていない。また、本技術は、（公社）地盤工学会の「地盤調査の方法と解説」において、「サウンディング（規格・基準以外の方法）」として紹介されているものの、基準化には至っておらず、試験方法自体の知名度も低いため、いままであまり普及が進んでこなかった。

2. 設立趣意

土層強度検査棒は、2003年に旧独立行政法人土木研究所において開発された計測器（特許第3613591号 土のせん断強度測定方法及び装置）であり、小さく携帯性に優れるため、現場における表層厚の調査や表層強度の測定に適した計器である。

本技術は、簡便で安価な計測や斜面安定度評価等を可能とするため、防災調査において適用性が高いと考えられるが、現時点では普及が進んでいない。そのため、課題となっている斜面安定度評価手法の開発や現場知見の集積に基づく精度の向上等を行うことが必要と考えている。

このような状況を背景とし、本技術のさらなる向上及び普及の促進を通じて、信頼性の高い国土建設や国土管理の実現に貢献することを目的とし、「土層強度検査棒研究会」を設立するものである。